

～平和への願いを世界に広げていく都市でありたい～

高山市長 くにしまみちひろ 國島芳明



最初に、宣言文の作成にご尽力いただいた高山市平和都市宣言検討会議の皆さま、多くのご意見をお寄せいただいた市民の皆さま、その他の関係各位に深く感謝申し上げます。市民の皆さまの思いがしっかりと込められた平和都市宣言ができましたことに、この上ない喜びを感じております。

さて、世界には今もなお争いがあり、自分の意志と関係なく命を奪われたり、住むところを追われたりしている人々があります。高山市は、日本の小さな地方都市ですが、平和への願いを世界に広げていく都市でありたいとの思いで、宣言に向けた取り組みを進めさせていただきました。

平和とは、そこに住む人々、世界の人々が平穏に心静かに希望を持って生きていける世の中だと思っております。これは、私の思いですが、市民の皆さまもそれぞれに平和への思いをお持ちのことと存じます。

世界の恒久平和の実現は、世界中の一人ひとりの思いや行動の先にあります。市民の皆さまにおかれましては、皆さまの思いが込められたこの宣言を大切に、平和について考え、取り組み、次世代に引き継いでいただきますようお願い申し上げます。

市といたしましても、市民の皆さまとともに、引き続き、平和への取り組みを積極的に進めてまいります。皆さん、一緒に出来ることから始めていきましょう。

～世界の恒久平和の実現に向けた取り組みを～

元高山市平和都市宣言検討会議会長 くろきまさゆき 黒木正之



この任を仰せつかりましたとき、大変な重責であり、難しい作業をお引き受けしたと思えました。宣言文は、今を生きる我々だけでなく、今後生まれてくる高山市民に引き継がれていくことを考えると、より身が引き締まる思いでした。委員全員が同じだったのではないかと思います。

会議が始まると、そもそも平和とは何か、人それぞれ考え方が違う、そういった市民の思いをまとめられるのか、会議は一進一退でした。振り返ってみますと、本当に多くの議論がなされましたが、市民の皆さまから多くのご意見を頂戴したことに励まされ、関係各位のご協力のもと、委員全員が平和への熱意を持って徐々に文章を形作ることができました。

「どんなときに平和を感じますか。」この質問に対して、市民意見で最も多かった答えは、「普段の日常」でした。我々は、普段の日常に不安を抱えながら生活している多くの人々がいることを決して忘れてはなりません。

我々、委員にとりまして、平和都市宣言の作成に携わらせていただいたことは、改めて平和とは何かを見つめ直す貴重な機会となりました。委員を代表し、この場を借りて感謝申し上げます。市民の皆さまにおかれましても、この宣言を通じ、一人でも多くの方が平和について考え、世界の恒久平和の実現に向けて行動をしていただけたら幸いです。

宣言文の作成過程

宣言文は、人権、平和、教育、観光、国際交流、まちづくりなどの多様な分野、幅広い年代層の22人の市民からなる「高山市平和都市宣言検討会議」において、多くの市民意見をもとに平成27年9月から11回の会議を経て、文案が作成されました。文案は平成28年11月に市へ提出され、平成29年3月24日の市議会において可決されました。

